

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 9月 25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700038		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	ほのぼの苑廿日市東		
所在地	〒738-0005 広島県廿日市市桜尾本町3番21号 (電話) 0829-34-3800		
自己評価作成日	平成30年8月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700038-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年9月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭的な雰囲気の中、地域の方とのご協力も頂きながら、お一人お一人の心に寄りそう支援を心がけています。苑での食事は食材の購入から調理まで苑で行い、管理栄養士の指導を受け、一汁三菜を基本として1日3食温かい食事の提供に努めています。</p> <p>また、3階の花壇では花や野菜を育て収穫までを楽しみながら見守り、食事に彩を添えています。</p> <p>他にも天気の良い日には近所へ散歩に出かけ、年間の行事では花見、駅伝応援、保育園運動会観覧、お祭りの大名行列見物など外出の機会を設け、季節を肌で感じてもらっています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>路地の多い古い町並みに立地している施設である。近くに蓮池や菖蒲園もあり、利用者は地域の人と触れ合いながら散歩を楽しんでいる。地域に開かれた施設として、利用者の暮らしを知ってもらうために見学会や介護相談会を3ヶ月毎に開催している。市の介護相談員訪問制度を活用し、利用者の思いを共感し傾聴してもらうことで心の安定の支援にも配慮している。ボランティアの訪問も多く、苑内の行事も多彩で利用者と地域の絆も図られている。食事を楽しみにしている利用者のために、昔からの馴染みの味で季節感のあるバランスの良い食事が一人ひとりの状態に合わせて提供されている。介護職員初任者研修にも力を入れ、雇用にも繋げている。ほのぼの苑の名前のように介護経験豊富な施設長と職員が和やかにほのぼのとケアに当たっている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(1F 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	職員全員で考えた理念を、毎朝の申し送りや唱和し実践している。スタッフ会議で話し合い、利用者への対応の改善についての心構え、申し送り時に唱和し改善しているものもある。	法人の理念と職員が話し合っ決めて目標事項を毎朝唱和している。人格の尊重と言葉遣いに関するものが多いが、利用者の繰り返される話は初めて聞くように聴く、ちゃん付けで呼ばないなど8項目のうち3項目はすでに改善され実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、公民館や保育園行事への参加や老人会(長生会)との交流がある。また、職員の出勤退勤時、利用者様との散歩時には地域の方々と挨拶を交わし馴染みの関係を作っている。中学生の福祉体験学習の受け入れで、世代を越えたふれあいで絆を深めている。	福祉体験学習では、かるた取りの際、「見ている利用者も一緒に輪の中に入ってもらいたかった」など中学生の感想や視点が職員の参考になり絆を深めることもできている。オカリナの演奏では耳の不自由な利用者が初めて歌を歌い楽しまれ、地域交流が生活の質の向上に寄与している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	昨年11月今年4月7月には介護相談会、施設見学会を新聞チラシ配布、苑の前に掲示してお知らせ質問や相談に応じた。随時対応もしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	市、町内会、民生委員、ご家族様に参加して頂き、現状報告を行なっている。また、講師の先生に来て頂き、栄養指導・熱中症予防・防災について等の研修を行なっている。頂いたご意見、研修の内容は、朝礼時や会議にて伝達しサービス向上に繋げている。	運営推進会議には家族や町内会の参加も多く、毎回市の高齢課の職員も参加している。その際市の出前講座を上手に活用して防災訓練講座・ノロウイルス予防講座・管理栄養士の食事指導などが行われている。会議の最後には1人ずつの感想や意見を聴き、サービスの向上に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険に関する情報を市からメールで頂いたり、地域包括支援センターと入居の件で情報交換するなど、連携を図っている。また、月1回、介護相談員に来て苑して頂き、利用者の声を行政に届けている。	毎月一回、市から介護相談員を受け入れ利用者の話を聴いてもらっている。その後市から苑に対する気づきや感想などが記録表で送られてくる。双方の電話やメールのやり取りで市の高齢担当課と情報交換もでき、行政と連携を図ることで利用者のサービスに繋げている。	

自己評価	外部評価	項目(1F 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は安全を優先し基本施錠しているが、希望があればいつでも開錠している。身体拘束マニュアルを作成し、勉強会を行い拘束をしないケアを徹底している。	玄関は施錠しているが、出たい希望があればスタッフと一緒に外出できるようにしている。身体拘束・虐待・言葉遣いの研修を3ヶ月ごとに行っている。言葉の虐待や命令口調、冷たい敬語、「ちょっと待ってね」など、言わないよう職員同士で注意しあい拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止マニュアルを作成し、職員間で共有している。また、定期的に虐待チェックシートに記入し自己評価をすることで虐待防止に対する意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会の伝達報告で情報を共有している。法人内の専門職に助言をもらい活用できる協力体制にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、管理者、計画作成担当者が出席し、口頭と文書で時間をかけて説明している。入居前でも後日でも随時、質問が受けられる体制にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に、ご意見や要望を頂戴し日々の運営に反映している。	職員は、介護をする際、利用者に当たって危険なため、名札を付けていなかったが、名札を付けて欲しいと家族から要望が出た。職員が話し合い、名前を刺繍したエプロンを着用するように改善されている。	

自己評価	外部評価	項目(1F 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、代表者の出席の上、スタッフ会議を行い、意見交換を行なっている。</p>	<p>利用者との関わりの時間を増やすため、調理の専門員を雇用してもらう提案をし、昼の食事作り、買い物をしてもらえるようになった。当初1名の雇用であったが、再度の提案で2名になり、業務や職場環境改善、利用者のサービス向上に反映されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行い、疲労やストレスの要因について理解すると共に休憩場所や時間を設け、気分転換を図っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>内部研修、外部研修を行い、職員の自発的参加を促している。 オムツの基礎知識、姿勢と排泄関係、介護記録の正しい書き方などの研修に参加。スタッフ会議で報告、共有している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>サービスの向上のため、他の事業所のケアマネに見学に来て頂く等して情報交換している。 毎年同業者、病院関係をたずね情報交換をしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス開始にあたっては、事前見学して頂いたり事前訪問させて頂き、会話の中からお本人の思いを把握するよう努めている。入居後は特に関りを多く持ち、安心して生活できる環境作りをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1F 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前、直後も不安な思いや要望をしっかりと聴きし、相談しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況に応じて、その時の必要性を見極め検討している。早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する側、される側という意識を持たず、共に支えあう関係作りをしている。人生の先輩として敬い、暮らしの知恵など職員が教えて頂く場面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の状態をこまめに報告し、御家族の思いや意見もお聴きしながら、同じような思いで支援する事を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの人間関係やご近所付き合いなどを把握し、面会に来ていただいたり、電話や手紙を使用し繋がりを継続できるよう支援している。なじみの美容師に来ていただき、なつかしい会話での散髪が継続している。	家族や馴染みの人に電話を掛けたい、手紙が出したいと希望があれば対応し、これまでの人間関係を継続していく支援を行っている。馴染みの美容師さんの来苑により、昔のご近所の思い出話を懐かしんでもらう機会も継続している。	

自己評価	外部評価	項目(1F 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聞いたり、利用者同士の関係がうまくいくよう職員が間を取り持つこともある。交流が苦手の方も、職員と一緒に関わることで孤立する状況を作らないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後でも随時ご家族様からの相談にのっている。 今年7月にはご家族様より心温まる手紙をいただいた。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中から利用者様の生活歴や好みを把握するよう努め職員間で情報を共有している。意思疎通困難な方は、ご家族様からの情報を得ると共にセンター方式を利用し生活全般の好みや過去、現在の思いの違い等把握に努めている。	少し前と現在では利用者の思いも変化しているので、その思いを何気ない日常会話から気づくように全員が努力している。今ではできなくなった昔の趣味の社交ダンスなどの話をしていうちに現在の思いを吐露される事も多く、その思いを利用者本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人様やご家族様から生活歴や要望等をお聴きし馴染みの生活が継続できるよう環境作りをしている。また、入居前のサービス提供者より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	身体及び生活状況の変化を職員間で話し合い、情報を共有し意識統一を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(1F 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>まず、ご本人、御家族様のニーズに沿ったケアプランを作成し、担当者会議にて看護師、介護職員も含めて再検討することで、現状に即したプラン作成に努めている。</p>	<p>現状に即した介護計画の見直しを行うためにモニタリング表を活用している。「少し動いたらしんどいと言われた」「絵本が好きだと言われた」など、一人ひとりの言動を聞き逃さず毎日の気付きとして一行に簡潔に書き留められ申し送りながされている。半年分の日々の気づきの集積が次回のプラン作成の検討材料に繋がっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の経過記録を記入し、職員間で確認している。また、「サービス計画書による介護実施及びモニタリング」に介護職が毎日気付き等を記入することで情報の共有や介護計画見直しに生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人のニーズに合った支援が行なわれるよう心がけている。また、ADL低下が見られる時は、医師に相談し訪問マッサージを取り入れたり、生活リハの強化に力を入れている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域行事に参加させて頂くとともに、買物や散歩等、地域の中で楽しみを感じて頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に苑の連携医療機関を説明し、今後のかかりつけ医を決めていただいている。また、看護師による医療連携も行なわれており、適切な治療が受けられるよう支援している。</p>	<p>利用者は眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科などは従来からのかかりつけ医を受診しているが、内科は苑の協力医の往診となっている。二人の医師に月三回の往診を依頼している。医師同士も連携を取り合い協力してくれている。看護師2名も近隣在住であり、施設長～看護師～医師との医療連携もうまく機能し適切な治療支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1F 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師2名が交代で勤務し、ほぼ毎日看護できる状態にある。夜勤者が朝礼時に夜間の気づきを伝え、日中はその都度報告している。看護師は個々のかかりつけ医に相談の上、適切な看護を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と連携を図りながら、状況把握や退院の方向性について情報交換している。また、面会時にご本人の容態を確認しながら早期退院に向けて話している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階でご本人とご家族と話し合いを持ち、終末期のあり方について、ご家族様、医師、苑との三者懇談を行い、方針を決める事になっている。	昨年初めて看取りを経験する。職員の不安もあり事前に研修を行い、家族・医師・苑の方針や情報を職員全員で共有し、家族からも喜ばれる看取りを行うことができたが、家族をお呼びするまでの間に何をしたらよいかなど課題もあり、この経験を活かして今後に繋げる努力をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成すると共に、利用者の病歴を把握し、急変時の対応に心掛けている。急変時に落ち着いた対応が出来るよう、スタッフ会議にて看護師により講習も行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月1回日中消防避難訓練を行い、夜間避難訓練も毎月夜勤者が行なっている。地域の防災訓練にも参加し、協力体制を整えている。	災害に備え、食料備蓄・簡易トイレ・毛布などを常備している。毎月、月初めの19時から20時の間に夜勤勤務者4名に対しそれぞれ1回、計4回の夜間消防訓練を実施している。避難場所の提供を町内会長に提案するなど、地域との協力連携体制も築かれている。	

自己評価	外部評価	項目(1F 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人お一人に合った声かけを心掛けています。自己の言動を見つめなおすべく、定期的にセルフチェックシートを使って意識向上に努めている。	一人ひとりの生活歴に合った適切な言葉を選択しながら声掛けを行っている。職員は人格の尊重や虐待など、セルフチェックシートで自己チェックを行い、言動を振り返り、気づきを得てより良い対応、支援に活かしている。名前も慣れてくるとちゃん付けになる傾向にあったがそれも改善されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃の会話の中からご本人の真の思いに気づくよう努め、ご本人の意思を尊重している。日々の生活はご本人のペースに合わせるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースを尊重し、起床、食事などの時間も個別対応している。外出、散歩等、出来る限り要望に応えられるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の好みの衣服を選んでいただいている。また、入居前に使われていた化粧品等も自由に使って頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の希望もお聴きしながら、季節の食材を使用し、調理、配膳、片付け等、出来るところは一緒に行なっている。	利用者は玉ねぎの皮むきやもやしのひげ取りなど、食事の準備を職員と一緒にやっている。地域の人から提供される柿や落などを活用し、季節感のある目に楽しい食卓になるよう工夫している。調理する人が利用者の食事の様子を見守りながら観察しているので、食材の硬さや切り方など、きめ細かな支援ができています。	

自己評価	外部評価	項目(1F 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日，食事，水分摂取量を記録し個々の状態把握に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後，口腔ケアを実施し口腔内の清潔保持に努めている。また必要な方には訪問歯科医による治療，また入居者様全員定期的に口腔ケアも行なっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表に記録することで，個々のパターンを探る。出来る限りトイレでの排泄を促しオムツ，パットの使用量を減らせるよう支援している。</p>	<p>利用者一人ひとりのトイレ誘導時間を全職員が把握しているので，その都度声掛け，手引き誘導などで排泄の自立支援を行っている。昼間は多くの利用者が布パンツとパットの併用で暮らしている。おむつ代を徴収しているため，おむつ，パットの負担を軽減する工夫やその管理も適切に行われている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄や散歩で腸運動に働きかけると共に，1日1000ccの水分摂取，腸に良い食物の摂取に心掛けている。必要に応じて医師の指示を受け，排便コントロールを行なっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>出来るだけ希望に合わせて入浴して頂けるよう対応している。足浴，手浴，清拭，ドライシャンプー等の工夫も実行している。</p>	<p>入浴の際は，利用者個々の肌の状態に合わせた石鹸やシャンプーの選択に配慮している。新商品の沐浴剤などすぐ試して入浴を楽しいものにする努力も行われている。リフト入浴者には浴槽にしっかり浸かってもらい，リラックスして職員との会話も楽しんでもらえるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1F 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ご本人の生活習慣を継続した休 息を取り入れると共に、就寝時 間もご本人の意向に沿うよう にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬の情報は個々のカルテに保管 し、いつでも職員が確認出来 るようにしている。薬剤師、医 師との連携を図り、副作用の 早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	役割を持ち、生活に張り合いを 感じられるような関りを心掛け ている。ご本人の嗜好等はセン ター方式を用い、把握に努めて いる。また、散歩やテラスでの 外気浴で気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。	天気の良い日には近所へ散歩に 出かけ、気分転換を心がけてい る。年間の行事として花見や駅 伝応援や保育園運動会観覧、お 祭りの大名行列見物を一緒に 楽しむなど外出の機会を設ける ように努めている。	近所には路地が多く様々な散歩 コースを楽しめるよう支援が行 われている。大名行列を観覧し た際は、駐車場の提供など地 域の人の支援を得、交流を図 ることができ、散歩時に声を掛 けてもらえるようになった。保 育園の運動会では玉入れ、ダン スなど車椅子で参加し日頃でき ない経験の機会を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	基本的には苑で管理しているが、 外出時には個人精算出来るよう 支援している。		

自己評価	外部評価	項目(1F 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望により、電話や手紙のやり取りを支援している。 家族への年賀状作成の支援。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関先には利用者様と一緒に作成した季節の飾り付けをしている。リビング内には絵画を飾ることで、落ち着いた雰囲気作りに努めている。また、ぬり絵や書道等、利用者様の作品も展示している。 三階ベランダ花壇では、季節の野菜や花々を利用者とともに育て楽しんでいる。	共有空間は利用者同士がおしゃべりするにも、ケアを受けるにも程よい広さである。利用者は食事の準備を近くで見ながら職員との会話を楽しむこともできアットホームな場になっている。三階のベランダにはスロープが取り付けられ車椅子で花壇の手入れを楽しむことができるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファを設置したり、利用者様同士でお話していただく為、席の配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	好みの物や馴染みの物をお持ちいただくなど、居室は自由に使って頂いている。	各居室には備え付けの机がある。机は車椅子対応になっており、書道や読書などそれぞれの趣味を楽しむ場となり、利用者の活動意欲を引き出す一助となっている。住み慣れた家からは思い出の写真や馴染みの品々を自由に持ち込むことができ、今までの暮らしの継続に配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	お一人お一人の身体状況により、ご自分の力で動け、また危険回避できるよう、物の配置に配慮している。		

V アウトカム項目(1F 2F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑廿日市東

作成日 平成30年10月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	38	介護度も年齢も高くなりワンパターンの生活になっている。	その人らしい暮らしの中にも楽しみを持っていただく。	散歩で季節を感じていただく。会話で利用者様の意向を引き出す。	6ヶ月 (1カ月ごと自己評価する。)
2	38	利用者様の関わりが業務先行になっている。	尊敬の気持ちを持って対応する。	「ちょっと待って」は理由・待ち時間を説明し了解を得る。	6ヶ月
3	38	利用者様の筋力低下	現在の筋力を保つ。	生活の中でのリハビリで行動を見守る。安易に歩行出来る方を車イス使用しない。	6ヶ月
4	36	トイレがカーテンの為プライバシーの保持が出来ない。	プライバシーを守る。	トイレのカーテンをドアに代える。	6ヶ月
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。